

2010年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう
-互いに愛し合い、神を知る

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2011年3月20日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

新年合同礼拝 (主の年 二〇一一年一月十日)

一 区

川口教会 本間 一秀



埼玉地区一区の新年合同礼拝が大宮教会にて行なわれました。

礼拝説教の担当は金田佐久子牧師(西川口)

でした。聖書はルカによる福音書第二章二十二節〜三十五節で、子供に向けてのメッセージも別途にさせていただきました。

二十九節「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます」。この御言葉に金田先生は焦点を当てられました。

先生は教会学校に通って居られた頃、「安心して死ぬことができるのだ」と理解して居られたとのことでした。しかし、今は、「私たちは罪赦されて、安心して出発することが出来る」とお話されました。まさに新しい年の始めにふさわしいメッセージであり、礼拝後の歓談の一時にも参加された方々から「励まされました」との感想を頂きました。特に祝福の時に、金田先生は子どもたち一人一人の肩を抱いて「神様が共にいますように」と力強く祝福されました。

先生独自の祝福の為され方に感動を覚えました。

礼拝後の新成人への祝福の祈りは、中村眞牧師(埼玉新生)がされました。会場内では今年成人式を迎える方は居ませんでしたが、新成人の為に、そして成人に対する教会の役割を覚えて祈りが捧げられました。

この合同礼拝を通じて、私達はまさに主にある交わりを深め、地区の一致と連帯を深めていかなければならないと、思いを新たにされました。

参加者は、二十五教会一五一名でした。礼拝の後は、一階ホールにて茶菓を頂きながら地区内の教職・信徒の皆さんと交わりの時がもてました。(教師委員会)

二 区

武蔵豊岡教会 栗原 清



埼玉地区二区新年合同礼拝は、天候に支えられ、近年献堂された志木教会を会場に行われました。礼拝堂は百五十人を収容することが出来る

広さで、白い珪藻土の内壁と木目が生かされた講壇で、落ち着いた雰囲気があります。この日、二区内諸教会よ

り十七教会・伝道所の牧師、信徒一〇二名(うち子ども六名)が集いました。

山岡創牧師(坂戸いずみ)は、説教題「野の花を見なさい」(マタイ福音書第六章二十五節以下)を通して「明日のことまで思い悩むな。全てを主に委ね、日々聖書に親しみ、御言葉の恵みを分かち合ひましょう。」とご自身の牧会体験を証して、力強くメッセージを語りました。子どもたちには、神さまは私たち一人ひとりを愛して下さっています、とユーモアあふれる優しさをもって話されました。

潮義男牧師(志木)は、教憲教規に則った聖礼典を執行する、と宣言され、信仰を告白し洗礼を受けた者が共に聖餐の恵みに与りました。礼拝後は、志木教会の心づくしの茶話会が用意され、主にある親しい交わりを豊かに持つことが出来ました。

寒風吹きすさぶ一日でしたが、心豊かに温かな気持ちで帰路につきました。(教師委員会)

三 区

秩父教会牧師 都築 英夫

三区は行田教会を会場として主を礼拝することができました。

こどもへのメッセージを篠原節子教育主事(鴻巣)、また説教は柳下仁牧師(北川辺)が御用をされました。(二ページに続く)

今年正月、妻と子・孫達と一緒に伊豆方面へ旅行をした。気候温暖な伊豆とはいえ、厳冬の寒さは少々身にこたえた。孫のリクエストに応じて久しぶりにミカン狩りをする事になった。大して期待はしていなかったのだが、もぎたてミカンのあまりのおいしさに驚いた。甘みと酸味のバランスが良く、大いに満足させられた。そこでミカン園のご主人に、旨さの秘密を聞いてみた。「どうしたらこんなにおいしいミカンが出来るのですか?」と。答えは簡単明瞭、「土壌だよ」。聞いてみれば、ご主人のお父さんの代からミカン園の土壌を大事に思い、長年かけて、甘くおいしいミカンが出来るにはどのような方法から良い土壌になるかを模索しつつ、育ててきたそう。当たり前前といえば、それまでだが、「なるほど」と唸ってしまっ

た。教会における、信仰教育、特に子ども達を始めとする若い方々への教会教育に大切な土壌作りに必要なものは何かと考えさせられた。(金刺泰雄)



ヘブライの信徒への手紙 十一章十七節〜二十一節で、同じ所からふたつの

メッセージが取り次がれました。

篠原教育主事は二人の子供とすべての出席者に、アブラハムがイサクを捧げたことについて紙芝居などを用いて説き明かされました。

また、柳下牧師は「信仰によって生きる」という説教題のもと、ヘブライ書の背景から「信仰」とは何かを語り、先達の信仰者たちと未来の信仰者たちを繋ぐ輪となるように、今を生きる私たちが召されていることを示されました。

礼拝後は行田教会付属の幼稚園園舎で、行田教会の皆様の手により、豊かな昼食を用意していただき、みんなが満腹しました。主の恵みに満たされて地区の伝道に出発する良き礼拝の時でした。

出席人数六十三名(十一教会、二伝道所、一集会所より)

(教師委員会)

ご就任おめでとう

准允をうけて

飯能教会 五十嵐実季



この度、飯能教会担任教師に就任いたしました五十嵐実季と申します。私は生まれ

てから大学院までずっと兵庫や大阪で過ごしていました。今年度、聖望学園中学校高校に聖書科講師として採用されましたので思い切つて関東に来ました。そして、学校からも自宅からも一番近くにある飯能教会に出席しています。その中で、伝道者としての歩みも始まりました。

私がこの地で与えられているヴィジョンは、若者への伝道です。学校の課題のために義務として礼拝出席をしている中高生たちに、どのようにして教会に続けて来てもらえるのかを捜し求め、また、地区の諸教会につながっていきけるようにも導いていきたいと考えております。さらに、飯能教会に来ている小学校に進級する子どもから高校に進学していく子どもたちが、教会にしっかりとつながっていきけるようなプログラムを具体的に考えていき

たいと思っています。

また、地区のみなさまとの関係を、少しずつ築いていきたいと思えます。また、二十代半ばの若さですが、神さまの導かれる道を歩み、神さまのご用のために誠実にお仕えしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

報告

CS教師研修会報告

小川教会 長尾 愛子

一月二十九日(土)埼玉新生教会を会場にCS教師研修会が行われました。参加者は五十名、教会数は二十四、テーマは「今日における子ども伝道」でした。

今回は条件の大きく異なる三教会の実践報告を中心に、後半はグループに分かれて昼食をとりながら、お互いの情報交換などをしました。

報告一 桜井貞子さん(北本)は少人数の子どもたちへのていねいな働きかけと課題。スタッフの高齢化などにより毎週はできないが、合同礼拝をして教会全体で子どもたちと共にあることを共有していること、またその恵みと重要性を語られました。



報告二 川中真牧師(岩槻)は幼稚園があり、近隣にキリスト教主義学校のある教会のとりくみについて語られました。付き添いのお母さんのための分級もある。ご自身もこの教会の出身者とのこと。CSの教育はテクニクではなく神に愛されていることをこどもたちと共に喜びたい。

報告三 笹田愛子さん(川口)ベテラン教師を柱にスタッフ九名が力を合わせて、蒔かれた種を大事に育てている。充実した分級活動の紹介、CS便りを郵送しているなど具体的な報告があり、参加者からの質問も多くありました。

共通して印象的だったことは「一目に見えないものへの感

性」あるいは「人として生きる根になる部分を育てる」ために時間と気持ちを惜しまずにささげる奉仕者の姿勢です。それらを支え、導いてくださる神さまへの篤い信頼が、発題者お一人おひとりの中に証しされていたと思います。

当日は教区の集会との関係で会場が変更になり、しかも当は各自持参という集まりであるにもかかわらず、五十名の方々が集まりました。これは、CSにかかわる方々の熱意であるとともに、励まし合うこと、情報を得ることが必要とされていることの現れではないでしょうか。礼拝に集う子どもが増し加えられることは簡単ではないし、まして子どもたちが信仰告白へ導かれる道のりは一朝一夕とは行きません。それでもさまざまに工夫を凝らし、祈りつつ、子ども伝道へのたゆまぬ努力をしている方々、喜んで奉仕する仲間がいることに頭が下がり、また励まされます。

改めて、子どもたちの心に届く礼拝と楽しい活動を求めていきたい、またその背景にいる家族の方々にもみことばの種まきを続けていきたいと思えました。

(教会音楽委員会)

2・11集会

北川辺伝道所 柳下 仁

今年の「2・11集会」は、箕面市から平山武秀牧師をお迎えして「『信教の自由』をとらえ直す」と題して、講演していただいた。分かり切っていると思っている事柄が、決して簡単ではないことを教えられる。以下、講演要旨。

「信教の自由」の出発点は心の中の信仰であって、それが公に表現されるのが信教の自由である。「信教の自由」は個々の宗教の利益のためではなく、公正な社会の実現のために必要なのであって、憲法人権規定の中心である。

また「信教の自由」を妨げる力は、外部の権力のみならず、教会と国家が結びついた国家教会の場合のほか、教団ぐるみの選挙が企図される場合、あるいは日常的な教会生活の場でも起こり得ることに留意しなければならぬ。

日本国憲法では「政教分離」が一応うたわれているが、さまざまな場面でこの規定が実質的に破られていることを認識し、常に「政教分離」「信教の自由」を求めて、発言し、行動すべきである。(参加二十八教会、七十五名) (社会委員会)

聖餐について理解を深めるためのパネルディスカッション

岩槻教会 三井田忠昭

一月二十二日(土)午後一時より大宮教会において、地区委員会主催の聖餐について理解を深めるためのパネルディスカッションが開かれました。パネラーは発表順に、東海林昭雄牧師(埼玉大通り)、黒田毅兄(武蔵豊岡)、最上光宏牧師(所沢みくに)の三人でした。(二十八教会七十名出席)



東海林昭雄牧師の要旨

洗礼から聖餐へは信仰の根幹である。本来聖餐は神が和解を与えてくださったという贖罪信仰に基づくもので、十字架の贖い、死を通して、神が関係を持って招き入れて(受け入れて)下さることへの感謝に基

づくものです。

またサクラメントのともとの意味は軍隊の誓いとか供託金に由来しており、約束が履行されなければ没収されるという意味がありますから責任を伴います。聖餐は贖い主たる主イエスへの信仰をしるしとして表すことに他なりません。また、パンとぶどう酒は赦しという神の約束を具現化したもので、信仰を持って応答する責任があります。最後の晩餐のイエスの宣言は遺言状であって、これから死ぬことを宣言すると同時に、相続人たる資格をも明確にしています。パンをいただいたという聖書の記事でも、

五千人の群集と弟子の違いは明らかで、贖罪信仰に基づくかないで聖餐に与る事は出来ないのです。

黒田毅兄の要旨

私の属する武蔵豊岡教会は創立百二十二年のメソジストの教会です。講壇の前に柵のようなものがありますが、聖餐に与る時は『恵みの座』に進み出て、柵の前で跪いて聖餐に与ります。これを「跪座(きざ)聖餐」と呼びます。聖餐式において実在のキリストと対面することに全力を集中する事を大

切にしてきたメソジスト教会の伝統です。現在は跪座聖餐の回数が少なくなりましたが、年配の信徒には自席配餐に抵抗を覚える者もいます。

米国合同メソジスト教会の見解では「信仰によって招きに応答する未受洗者は食卓に歓迎される、彼らは信仰共同体に加えられる聖礼典としての洗礼、信仰の旅路と聖化における成長に必要な糧としての聖餐について教育されねばならない」とし、すべての人が「恵みの座」へ招かれ、未受洗者へは、牧師より祝福の祈りが与えられる。

最上光宏牧師の要旨

正教師になって四十年、オーブンの立場で聖餐を行ったことはないが、それが正しいとは思っていない。未洗礼者も主に共に招かれ、主のみ言葉に与りながら、聖餐から排除されなければならぬことに痛みを感じている。

イコリント十一章二十七節にあるように「相応しくないままで」とは、富んでいるものが貧しい者に恥をかかせるような主の晩餐の与り方を指している。ヨハネ福音書の招きの言葉でも「み言葉を信じるものが

一人も減びないで」の「一人も」には未洗礼者も含んでいる。だから聖餐の執行に当たっては主の赦しを乞いながらクローズドで行っている。今は自重し忍耐して、教団だからと言いついて聞かせている。いわば私の立場は「開かれたクローズド」である。

洗礼は二次的なものに過ぎないし、洗礼はライセンスではない。新生すること、恵みとして与えられるものである。教団は合同教会として、異なるものが集められたのだから、御心が成るように共に求めて行きたい。教憲教規も人が作ったものである限り絶対ではない。

この後、会場より質疑や意見を誰が確認するのか。②クローズド。オープン。フリー聖餐の言葉の整理。③洗礼を受けることができない家庭の事情に対する牧師の役割。④洗礼、聖餐の順序での恵みの認識。⑤「相応しくないまま」の解釈などが述べられ、実り豊かな集会となりました。特に、ようやく公に聖餐問題について意見交換をする集会が持てたことへの感謝と、今後も継続的に話し合いたいとの希望がありました。(地区委員)

特集

教会訪問七里教会

埼玉新生教会 中村 眞

二〇一一年二月八日に七里教会を通信委員四人で訪問させていただき、七里教会では、風間直次郎主任牧師と佐々木佐余子担任牧師、四人の教員(浅香さん、井関さん、風間さん、川村さん)がお迎えくださいました。

一九九四年十一月に新築されたウッドデーな礼拝堂で、宣教開始三十一周年となる七里教会の歴史を風間牧師からうかがいました。

一九七九年六月から風間牧師のご家族が住んでおられた大宮・七里の地で開拓伝道が始められました。東京・小石川白山教会が親教会になって、人的にも財的にも継続して支援を続けてくださっていること



の感謝の言葉で口火が切られました。

貧しいため雨漏りのする民家を借りての伝道所開始で、礼拝に来る人は誰もなく、牧師と妻だけの礼拝が続いた。それを見ていた子どもたちが礼拝に出てくれるようになって、伝道所の働きが動き出した。そのうち三男は、現在高岡教会の牧師になっている。

その民家の家賃は八万円だったが、小石川白山教会が半分を支えてくれ、土地取得・教会堂建設時には、ローンも加えて毎月八万円を送り続けてくれ、昨年春の借財完済にいたるまで長期にわたって継続してくださったと、感謝しておられました。

苦労話を聞かせて下さいと水を向けましたが、「今日に至るまで困難極まることは何度もあったが、み言に寄って立つてきたことと、神さまがなさってくださいだったことなので、苦労話はない」し、「妻や子どもに説教することは牧師としてよい訓練になった。家族に神のみ言を語れなくて、どうして他の人をみ言によって救い、養うことができるのか」と、なつかしい牧師魂を思い起こさせてくださいました。そして、「神さまが一番苦労されたのではないか」と付け加えられました。

担任の佐々木牧師からは現在の様子をお聞きしました。二〇一〇年十一月に礼拝堂内の壁面や床をリフォームし、明るく快適になった教会の会員は二十九人。毎週二十人ほどで礼拝をささげている。土地・教会堂・墓地と順次与えられ、現在は宗教法人格取得が課題とのこと。

教会員のみなさんからは、四十人礼拝の実現や子どもたちの礼拝の充実、新来会者への配慮や高齢となった教会員への配慮など、具体的な課題を、教会員みなで担っている様子を伺いました。

礼拝堂が二階にあるため、足

や膝の弱い方も安全に上ることのできる昇降機を玄関入り口に設置し、毎週の礼拝後にはお茶を飲みながら交わりの時をもって、誰でもがくることができ、温かく歓迎する体制が整えられています。



長く続けている「こころの友」誌四〇〇部を地域に配布することや、一年前から開始したブログの公開も、子どもから大人まで、地域の方になんとしでもおいでいただきたいとの祈りを具体化して、七里にあるキリストの体である教会としての宣教の働きを続けておられます。



二種教会になりましたが、なお、開拓途上の教会として自らを位置づけ、やがて、教会を生み出すことのできる教会になりたい、との願いを持っておられる教会のみなさんたちの明るい笑顔に、わたしたち委員も励まされた教会訪問でした。(地区通信委員)

七里教会案内

牧師 風間直次郎
担任 佐々木佐余子

住所 さいたま市見沼区 東門前二九五―十三

(東武野田線七里駅より)

電話・FAX 徒歩一〇分

〇四八―六八五―三七〇―一
創立 一九八七年七月十二日

地区委員会報告

六千円

●二〇一〇年度第五回委員会
日時 十一月十六日(火)
会場 秩父教会
出席 十名 欠席 一名

【主な報告・協議事項】

◇委員長報告

・アーモンドの会講演会(埼玉和光) 出席九月二十三日

・所沢みくに教会創立四十周年記念会出席十月十日

・桶川伝道所開設十九周年記念会出席十月十七日

・上尾合同教会創立五十周年記念会十月二十三日

・伝道と賛美の集い(越生) 出席十月二十四日

・桶川伝道所の宣教、会計について地区三役と高橋悦子牧師と懇談(埼玉新生) 十月二十六日

・埼玉地区CS生徒大会十一月三日

◇教会関係

・宗教法人設立申請 所沢みくに教会 九月二十一日教区承認 九月二十四日教団承認

・教会設立申請 狭山伝道所 九月二十一日教区承認 十月四日教団承認

・教区負担金の減免申請 朝霞教会 五万七千円↓二万

・秋季按手礼式・准允式(十一月二十七日)で准允を受ける埼玉地区関係者

受准允者 五十嵐実季(飯能教会)、坪内時雄(任地未定・初雁教会関係者)

◇桶川伝道所を支える会 開設十九周年記念礼拝(十月十七日) 説教・深見祥弘牧師 三十二名出席。

以上、承認した。

◇「聖餐について理解を深めるためのパネルディスカッション」に関する件

開催日時十月三十日(土)の予定でしたが、パネラーの一人が不可となったので、二〇一一年一月二十二日(土)十三時から十五時三十分に変更し、会場は大宮教会とする。司会・土橋委員長。

十二月第一日曜までに各教会に案内をする。

◇「韓国京畿中部老会の埼玉地区訪問に対応するための小委員会設立」に関する件

今年度の地区委員は、そのま

ま来年五月九〜十二日の間安

安歓迎行事の準備及び執行に

師十一名 計二十五名 四十九万円

◇CS賛助金の件

CS賛助金は、地区内教会・伝道所のCSより分担金として徴収していたが、来年度から廃止し地区予算案に含める。

以上を可決した。

●二〇一〇年度第六回委員会

日時 一月十八日(火)
会場 聖学院教会
出席 十一名 欠席 なし

【主な報告・協議事項】

◇桶川伝道所を支える会報告 「桶川伝道所二〇一一年度からの歩みについて」確認事項 ①桶川伝道所全国支える会は二〇一〇年度をもって終了する。②二〇〇六年度から続いた地区支援金十万円が終了する。③教区ナルドの壺運動の互助献金の支援は

当分受けない。自立体制を整える。

以上、承認した。

◇「地区総会」に関する件

・中村眞副委員長が総会欠席となるため東野尚志教師を副委員長代行とする。

・開会礼拝説教を繪鳩アツエ教師(越生)、司式を結城恭子委員に依頼する。

・開票委員奉仕者(八〜十名)につき武蔵豊岡、飯能、狭山教会で調整する。

・議員登録簿書を発送する。締切は二月二十七日とする。

・各委員会各部報告は二月十三日(日) 書記に報告ファイ

ルをメール添付する。書式は従来と同じ。

・議案報告書は三月十二日までに到着するように発送。

◇「聖餐について理解を深めるためのパネルディスカッション」に関する件

パネラー三名の交通費は一律五千円とする。

◇「京畿中部老会歓迎」に関する件

・一、二、三区より各三箇所ほどの教会・伝道所をスライ

ドを用いて紹介する。

◇教師謝儀互助の件

・竹内紹一郎教師(深谷西島)より申請のあった教師謝儀互助申請(関東教区)を承認する。

以上を可決した。

る件

・桶川関連議案は報告事項に記録する。二〇一一年度以降は地区委員会から協力委員派遣をしない。

◇「地区総会」に関する件

・報告、決算・予算、議案等、議員登録、その他

以上を可決した。

お詫びと訂正

前号(三十九―二号)の「山野忠男牧師を偲んで」の文中、下記を訂正致します。謹んでお詫びいたします。

【誤】 七年八月頃より

【正】 十二月より

【誤】 八月、再び講壇に立ち

【正】 退院後すぐに

【誤】 放射線治療一年余

【正】 抗がん剤治療二年余

(地区通信委員会)

一月十日の新年合同礼拝で始まった二〇一一年も早三月、この期間に多くの行事がありました。中でも地区として初めて聖餐についての集いが持たれました。また「特集」の教会訪問では七里教会のお話を伺うことが出来ました。紙面の都合で掲載できなかった報告もあり、お詫び申し上げます。(三井田)

編集後記

特集

婦人部だより

No.29

全体研修会報告

春日部教会 黒澤シチエ

埼玉地区婦人部全体研修会は、七月五日に大宮教会で開催されました。

「神の大切な作品」として造られた一人ひとり、しかも「それは極めて良かった」（創世記一章三十一節）神の最高傑作である故に、何ら価値の無いこのわたしを限りなく愛してくださっていると熱く語られた山岡創牧師（坂戸いずみ）の開会礼拝メッセージ。

講師・石川栄一牧師（北本）の「旧約における女性たちへの祝福」は、スライドも用いて話されました。聖書に登場する女性達を信仰面、倫理面から見た一般的な評価、と断りながら、大胆？にも五段階評価をして聴く者をぐっと引き寄せ、人間の持つ両面性をありのままに書いてあるのが、聖書であると説かれました。

以下は要約です。
信仰者として聖書を信仰と生活との誤りなき規範として正典性を告白しつつ、文学としての聖書を読み取る事によって、より豊かな聖書の世界、神と人との関りの広がりをつかむ事ができ、その一例

として、創世記三十二・三十三章に記されているヤコブとエソウの再会の場面をイメージ化しながら読むと、この二人の再会までの緊張感や和解してゆく心の動きが実に生き生きと描かれている。特に圧巻なのは、ヤボクの渡しでの神の使いとヤコブの格闘。一節ずつゆっくりとイメージしてゆくと、ヤコブからイスラエルになってゆく祈りと葛藤が読み取れてくる。

神は、良い人にも悪い人にも（評価が一、二でも五でも）救いの手を伸べておられる。「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を：」（マタイ五章四十五節）は、旧約聖書を包み込んでの素晴らしさも語っている言葉。

用意された資料が不足するという百三十八名の参加者は、学びの充実感を覚えた一日でありました。

私は、戦争などで教会から遠ざかっていましたが、母に勧められて教会に行き、自分は素直に、神様を信じていると思っていました。しかし、心の中にはいつも不平不満があり、何故苦勞ばかりあるのかと呟いてばかりでしたが、今回、集会に出席し、神様の深い愛を学ぶ事ができ感謝しています。



???

??????

【第一ブロック】

西川口教会 熊谷 芳江

十一月五日、十時～十二時。

講演は、東京聖書神学校吉川教会・深谷美歌子副牧師による「キリストの主権のもとに―神の家族への招き：霊による一致―」と題して語られました。

先生は、土戸清著「現代新約聖書入門」よりレジメを用意してくださいました。「天国を愛し合う夫婦から、地獄を憎みあう夫婦から見なさい」と例えられました。

先生ご自身の証もあり、キリストを第一におく事が大切だと、結ばれました。

久美愛教会 鈴木 悦子

私は、戦争などで教会から遠ざかっていましたが、母に勧められて教会に行き、自分は素直に、神様を信じていると思っていました。しかし、心の中にはいつも不平不満があり、何故苦勞ばかりあるのかと呟いてばかりでしたが、今回、集会に出席し、神様の深い愛を学ぶ事ができ感謝しています。

地区婦人部の活動を終えて

委員長 桜井 貞子

今期の活動を喜びと感謝をもって終了する事ができました。皆様のご協力と何よりも神様のお導きを心から感謝申し上げます。

夏に開催しました全体修養会では、石川栄一牧師（北本）をお招きして、旧約聖書に登場する女性たちを巡って興味深いご講演をいただきました。日頃、参考程度にしか見ない旧約聖書をもっと学んでみたいとの感想が皆様から寄せられました。

秋には七ブロックに分かれて最寄り婦人研修会が行なわれ、近隣の教会の婦人方が集い、交わりと学びを深め、当番教会の心あたたまるご準備によって楽しい時を過ごしました。

その他、関東教区婦人会連合関係や、世界の超教派による教会婦人との研修及び平和を祈る会など、多岐にわたる活動が展開されました。

これらは、今期に限った事ではなく、埼玉地区婦人部が、

義深い活動の数々であります。私は、自分の属している教会、自分の足元ばかり見ている者ですが、婦人部活動に参加させていただいた事によって、視野が広げられ多くの同信の友と尊い体験が与えられました。婦人部の委員として

参加していなければ得られない経験ばかりでした。各個教会において女性方の働きは重大ですし、言ってみれば、手いっぱい状況だと推察いたします。その中で、埼玉地区婦人部に委員を送り出す事は、抵抗があるかと思いますが、できる範囲で結構です。ですから「奉仕の力」を少しづつ出し合って、埼玉地区全体の活動を進めていただきたいと切に願う者です。各教会の牧師先生及び皆様のご協力とお支えを頂きました事を心から御礼申し上げます。

（北本教会）

【第二ブロック】

浦和東教会 矢能 昭子

十月十二日(火)少し寒い曇り日の朝、六教会・総教三十六名が参加して下さいました。

説教は、「ありがとうって伝えたくて」の題で永井二三男牧師のメッセージ。

講演は、東後勝明兄(浦和東)の「ありのままを生きる」と題して、ご自分の体験を語られ、充実した一時でした。

若い方に参加して欲しいという気持ちもありますが、「ありのままを生きる」今の

私たちが、「天に召される日」まで努力する姿を、神様は、お待ちになつて居るのではと、いう事を学びました。お茶会も話が弾み、名残惜しい時間を過ごす事ができました。

【第三ブロック】

春日部教会 渡部 晴美

十一月十三日(土)、越谷教会において七教会・伝道所から四十三名の参加を得て研修会が開催されました。

開会礼拝では、棚橋千恵美伝道師(越谷)の説教「キリスト・イエスを信じる人たち」(エフェソの信徒への手紙)から、キリストの体である教

会の礼拝で恵みと平安が与えられる事を再確認いたしました。

石橋秀雄牧師(越谷)による主題講演「主の御導(みわざ)を楽しむ」(エフェソの手紙・創世記四十七章二十五節)でしたが、まさに先生ご自身が自由人で主の御導(みわざ)を楽しんでおられるように見受けられ、気楽に講演を聴く事ができました。キリスト者は、自由なのだ!と安堵しました。また、「伝道」に熱意を示され、啓発されました。

一息ついて芸名・春風マルコ(薩摩牧子さん・越谷)による腹話術「光の子」は、子供たちへの伝道に。

分団では、「今後の伝道は婦人から」という事を考えさせられた感謝の一日でした。

【第四ブロック】

上尾合同教会 金刺 貞子

祈りつつ準備をして参りました研修会が、神様の御守りの内に開催されました恵みを中心より感謝いたします。

六月には、最寄りの六教会から十一名が出席して、日時や奉仕の分担などを確認する準備会を開きました。

十月十六日(土)に開催。七教会四十四名が出席。

開会礼拝は、「キリストを心に住まわせ」と題して秋山徹牧師(上尾合同)の説教。講演は、「妻と夫―社会の最小単位」と題して松浦義夫牧師(無任所)にして頂きました。

司会は、次年度の当番教会である埼玉中国語礼拝伝道所が担当しました。

今回、当番教会として感じた事は、新しい仲間が加えられる事は喜びですが、婦人部活動を休止している教会がある事を知り、祈りの課題であると感じました。近隣教会の仲間で行う研修会の良き学びと交わりが、皆様の信仰の糧となりますようにお祈りしております。

【第五ブロック】

高齢者福祉の現場から 小川教会 西島 純子

主のみ名をほめたたえます。

十一月十九日(金)、松本栄二兄(小川)の講演で「認知症のお年寄りの中に、いのちの輝きを見る」という題でお話をうかがいました。グループホーム「麦の家」の現場では、週に一度、家族が見舞いに来

る事を入所の条件にしています。すが、現実には難しいようです。認知症の方を受け止める側の接し方で、状態が良くも悪くもなるので、考えさせられ、勉強になりました。明日は、我が身という身近な問題になりつつある内容のお話に、情報交換の場となり、又豊かな交わりの時がもてました事を主に感謝いたします。

【第六ブロック】

死から命への恵み 所沢武蔵野教会 一色 美沙子

十月七日(木)、八教会・四十五名の参加で研修会を開催。

三水旨従牧師(所沢武蔵野)の講演は「キリストの祝福に満たされて―死から命へ―」と題し、聖書に記されている「恵み」について、ギリシヤ語から詳しい説明がなされた。

分団では、アンケート用紙に講演の感想、質問を書いてもらい、全体会では、そのアンケートに書かれた参加者の感想・質問から話が進み、主イエス キリストの十字架と復活による「救いの恵み」に、一層感謝するという声が多かった。主と皆の協力で深く感謝

する日であった。

【第七ブロック】

最寄り婦人会を終えて 秩父教会 萩原 初恵

紅葉が色づいた霜月十二日、二十五名の参加者を迎えて婦人研修会が行われました。開会礼拝後、「信仰の証」をエフェソ五章の「あなたがたは、神に愛されている子どもとして、神に倣うものとなりなさい」から、私の信仰と日頃のボランティア活動などについて話しました。

「基本が同じだから、環境や立場が異なっても価値が分かれ合える」といった会話が親睦の時を過ごした中で聞かれ、信仰に連なる連帯を感じうれしく思いました。恵み豊かな交わりと学びの時が与えられたとても良い集いでした。

アジア学院研修生 ホームスニー報告

☆研修生のお二人を迎えて

浦和別所教会 栗原 愛子 この度、我が家にお迎えしたのは、お二人の方でした。ニルシーさん(スリランカ)

は、開発指導員として自分の仕事に誇りを持ち、自国での働きを具体的に熱心に教えてくれました。新婚さんでご主人に会えないのが淋しい…と愛らしい面をのぞかせながら、

教会では、スリランカの象の踊りを披露し、子供たちは、目をまん丸くして見入っていました。素敵なお女性でした。



玲奈さん(日本)も志が高く、向上心もあり、私も良い影響を大いに受けました。アジア学院で身につけた農業のノウハウを将来、発展途上国の開発に生かし、現地の方々と共に汗をかき、関わっていききたいとの事でした。現地の人々が主体的に自立していくには、時間も労力もかかる大変な仕事ですが、それにもかかわらず、それを生き生きと楽しそうに話す二人の様子に、明るい未来と可能性を感じました。

☆メロディーさんを迎えて

安行教会 齊藤 勝子

今回は、ジンバブエからの学生メロディーさんを迎え、素敵なお名前を覚えた。私と二人の会話は、派手な身振り手振り、そして囃入りと、賑やかな時を過ごした。日曜礼拝には教会用のすがすがしい白と黒ユニフォームを着用。私にもユニフォームは着ないのか？とたずねられた。



共に食事をし、交わりの時に

は、すばらしい証しをされた。有志と子どもたちとの安行観光？では、色々興味深く質問をし、ゴミが落ちていないと、びつくりしたようだった。家庭集会では、子どもが多いということもあり、田中かおる牧師は、「ノアの箱舟」の絵本で説教をされた。メロディーさんも

園芸大学の校長であり、アジア学院での研修の学びを大学のカリキュラムに取り入れたいと、教育のビジョンを熱く生き生きと話しておられた。

☆「ラゼさん」をお迎えして

所沢みくに教会 高崎 和子

私にラゼさんを迎えました。牧師さんが何故農業を勉強するのか？」でした。答えは「私の両親、兄弟は農業をしている。私も週の半分は、農業をしています」と笑顔で話してくれました。その笑顔を見た時、心がうちとけ、三日間は楽しく過ごせると感じました。

主日礼拝後は、教会の色々な会合と重なり、ゆっくり交わりの時間を持つ事ができませんでしたが、そんな中でもおにぎりを食べながら語り合いました。高齢の方々は、「ミャンマー」というより「ビルマ」の呼名がわかりやすく、映画「ビルマの竖琴」というと直ぐに国がわかりました。朝の子ども教会では、日本、ミャンマー、バングラデシユの国旗と各国の言葉で「あいさつ」を書き、夫々の言葉で挨拶をし、楽しい時を過ごしました。

このような機会を与えられ、これからは「ミャンマー」と聞いただけで、「あの時のラゼさんの国」を思い出し、祈る事ができます。私たちの教会では、既に子供たちはバングラデシユとの交流を持っているので、また一つ遠い国の友人ができました。



夕食は、我が家の庭で、十五人ほどが集い、歓迎のバーベキューをし、楽しい時間を過ごしました。ラゼさんを迎えたことにより、このような楽しい時間が持てた事は、教会にとつて幸せな事でした。

☆新しい出会い

埼玉新生教会 菊地みつ子

我が家に、ネパールの若い女性・スニタさんを迎えました。スニタさんは、たった二晩の事でしたが大きな感動を残してくれました。

我が家でも、婦人会の集いで

も、彼女はネパールの女性の現状を話してくれました。「食べ物がない。お金がない。教育がない」など。義務教育ではないので、教育はお金があれば受けられませんか。子どもたちは、五歳頃から働き、女性は、労働力として嫁に行く…という、当然、男尊女卑。本当に胸が痛みました。私は、拙い英語で日本でも昔は、同じだった事、「女性も人間である」と気づいた少数が、立ち上がり、自由に生きられるようになった事を懸命に伝えました。諦めなければ、いつか必ず夢が叶う事を。スニタと末娘は、一つ違い。



娘をミティニ(ベストフレンド)と呼ぶようになりました。彼女の提案で、民族衣装のサリーを娘が、スニタは和服を着て礼拝に出席し、婦人たちに歓迎されました。